

横須賀市まちづくり評価委員会報告書

(平成 20 年度)

	ページ
平成 20 年度まちづくり評価委員会まとめ	1
将来像 1 にぎわいを生む社会	2
将来像 2 新しい芽が伸びゆく社会	5
将来像 3 長寿を楽しめる社会	8
将来像 4 安全で安心して暮らせる社会	10
参考資料	13

平成 20 年（2008 年）8 月

横須賀市まちづくり評価委員会

平成 20 年度まちづくり評価委員会まとめ

- ・ 新世紀ビジョンがスタートして、1 年余りが経過したが、その取り組みの成果が現れている政策もあれば、現時点でははっきりと見えないものもある。
- ・ 将来像はどれも大切であり、4 つの将来像と「元気な横須賀」の実現に向けて着実に取り組みを進めていって欲しい。
- ・ 「元気な横須賀」という視点では、将来像 1 ～ 3 との関連が強いかもしれないが、将来像 4 の安心・安全はそのベースとして重要である。
- ・ 現時点では、将来像ごとの取り組みが有効であったか、取り組みが足りない部分があるのかを評価し、改善することが求められる。
- ・ 市民アンケートの結果や委員会の議論を素直に受け止めれば「防犯」および女性・中高齢層と 20 代の男性を中心とした「働く場の確保」が市政の大きなテーマになる。どちらも市の関わりは限定される分野であり、すぐには結果が出ないかもしれないが、市民の実感を受け止め、早急に対策に着手してもらいたい。
- ・ 新世紀ビジョンの目標である「元気な横須賀」については、現在について、どちらかといえば実感されているということができ、また、全体として以前より良くなったと実感されていると思われる。
- ・ しかし、今回の市民アンケートでは各設問において「どちらともいえない」「わからない」という回答が多く見られた。この層については、通常「実感している」と「実感していない」の中間として捉えがちだが、「実感していない」と捉えることができるので、今後の動向に注意が必要である。

平成 20 年（2008 年）8 月
まちづくり評価委員会

将来像1『にぎわいを生む社会』

(1) 新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか(どういうところでそう思うか)

◎ 多くの人が訪れるまち横須賀

- 市民の実感は概ね良い方向に向かっていると思う。
- 鉄道乗客数の減少は定期券によるものが多く、定期券以外の利用者は横ばいである。
- 市民は、家電商品など大きな買い物をするときは横浜や東京に出かけていると思われる。顧客吸引力指数については、普段の買い物は地元を利用している、休日の買い物の額が大きいので、数値が低く出ているのではないか。
- 人が買い物をする場所を決める要因は、本質的にはそこに欲しいものや魅力あるものが売っていることである。
- おしゃれなものを購入できるのは、東京、横浜であるというイメージがあるのではないか。
- 観光ガイドツアーは年間いくつもあるが、希望者が多く、人数制限を超えることがあり、断っているツアーもある。せっかくの機会を逃している印象がある。

◎ 多くの人が働くことができるまち横須賀

- 新たに横須賀に進出してくる企業もあり、働く場はそれほど減っていないと思う。アンケート結果は大企業の流出によるイメージ的なものによる部分も大きい。
- 中高年齢層の満足度が低く、優先度が高いことに注意が必要。
- アンケート結果を年齢×性別で見ると、子育てを終えて働きたいという30代女性の意向(男性より満足度が低い)があるのではないか。また、40歳以上の各年齢層で6割近くの人が「思わない」と回答している。この点も政策的に検討しなければならないのではないか。
- 相対的に中高年齢層の満足度が低くなっているが、他の施策と比較し、全体的に満足度が低いので、政策的に重点化すべきというメッセージなのではないか。

-
- 横須賀のポジションが変わってきていることに注意が必要である。以前のように、大企業が進出してきて雇用の方が確保できるというイメージを持ち続けることは危険である。
-

(2) 今後の方向性

◎ 多くの人が訪れるまち横須賀

- 美術館、ソレイユの丘など観光施設は充実したので、施設までのアクセスの改善・PRなど、リピーターを増やす努力が求められる。
 - 美術館、ソレイユの丘だけでなく、横須賀に残る歴史や文化、花などをPRすることも重要だと思う。「黒船」「開国」「ペリー」「海」「港」「ドック」「米軍基地」「ドブ板通り」など横須賀を結びつけるキーワードを有機的に結びつけることで、活性化につながっていくか。ソレイユの丘や花の国など、花の美しい場所があるので、千葉の花畑のように花を買って帰れるようになると良い。
 - 顧客吸引力指数について、数値が低いことは妥当であるが、2年間で0.05ポイントも下がったのは大きな変化なので、その要因を検証しておく必要がある。
 - 常時のにぎわいには商店街の活性化が重要だが、活性化のためには、市の働きかけよりも、商店街自身がにぎわいを生めるよう取り組んでいかなければならない。商店街がどう思っているか、意見を聞いて欲しい。意見を聞く際には、商店の形態（住宅兼店舗・フランチャイズなど）に注意が必要。
 - 横須賀のランドマークとなるような商業施設が必要であり、大規模な再開発を促していくべきではないか。
 - 市外の人を買い物客として呼び込むのは難しいので、市民をいかに引き留めるのかという視点で考えなければならない。
 - 若者にとっては横須賀をPRする人の存在も重要になる。人気タレントの出身地であれば行ってみたいということがきっかけになることもあるようである。横須賀大使を有効に活用して欲しい。
-

◎ 多くの人が働くことができるまち横須賀

- 高齢者や子育てが終了した女性に、就労の場があることをアピールできれば満足度は上がると思う。
-

-
- 高齢者は、給料が下がっても、働く時間・場所といった自由度を重視する傾向にあり、女性の就労については、生活のために働きたいというケースや、小遣い程度の自分の自由になる収入があればよいというケースなど考え方は多様である。それまで自分が培った能力を生かせることもポイントではないか。
 - シニア創業資金融資や女性創業資金融資の実績を追跡する必要がある。
 - 有償ボランティアのような細かい分野で、雇用の機会を見出していくのがよく、社会的にも求められているのではないか。
 - 会社に勤めていた人たちが、社会に貢献したいと思ってもどのようにすればいいのかわからないと思われる。市や商工会議所で、中小企業支援と組み合わせ、退職者の経験や得意なことを活かせるよう、企業サイドと退職者をマッチングするなど中間的なしくみづくりが必要である。
 - シルバー人材センターとの連携も考えられる。
 - 横須賀で教育を受けた子どもたちが、地元を意識し、横須賀で働きたいと思ってもらうことも必要ではないか。
 - 県立大学の学生が卒業した後、横須賀で働いて欲しいと思っているが、働きやすい場所・環境がなければならない。
 - 就業意欲がある者の支援や働く場の確保のための施策について、セグメント別にニーズを把握し、ニーズのあるところに施策を打っていくという視点も必要である。
-

『にぎわいを生む社会』

- 東京・横浜とは違う「これぞ横須賀」という魅力を創造することが重要である。
 - 西地域ではキャベツや大根が廃棄されているが、就業とにぎわいを両立させるものとして加工できないか。
 - 野菜だけでなく、地場の魚なども含めて、おいしくブランドになるような加工品ができればよい。海軍カレー以外にも横須賀らしいお土産が欲しい。
-

(3) 目標指標について

- ◎ 多くの人が訪れるまち横須賀
-

○ 顧客吸引力指数は、にぎわいについての市民の実感とずれている可能性があるので、注意が必要である。

○ 美術館など集客施設の来館者数は、市外からどれだけ呼べているかが重要であると思う。

◎ 多くの人が働くことができるまち横須賀

○ 中高齢者の雇用対策の効果を把握できるような指標があると良い。

(4) その他意見

○ 住宅などの開発にあたっては、生活道路への影響や小学校への通学など、交通面で配慮が必要。

○ 逗子は若者、鎌倉は古都に対して、横須賀は危険というイメージがあるという話を聞いたことがある。軍港などのイメージを、危険ではなく魅力あるものに変えていかなければならない。

○ エコへの関心が高まっているので、車社会を発展させるのではなく、商業施設や観光施設を結ぶ新都市交通のようなものが必要だと思う。

○ 東京から来ると、JR 横須賀駅に降りるケースもあるので、駅周辺の雰囲気はどうにかならないか。ホームから海が見えるだけで、改善するような感じもある。

将来像2『新しい芽が伸びゆく社会』

(1) 新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか(どういうところでそう思うか)

◎ 子育て世代に選ばれるまち横須賀

○ はぐくみかんの整備は、子育て施策の最先端といえる。

-
- 居住場所の選択において、子育ての条件というのは女性にとって大きな判断材料となる。会社の社員の中に、子どもが生まれて横須賀に転入したという話を聞いたことがない。保育園、幼稚園の条件が悪いことを理由に横須賀から転出するという話はよく聞く。
-

◎ 学びを大切にするまち横須賀

- 市民の満足度が高く出ているが、アンケートの回答理由をみると、市民大学の充実や県立保健福祉大学の開学などが良い意見を誘引しており、学校教育そのものへの満足度はそれほど高くないのではないかと。
 - 優先順位は低いですが、捉えられていない問題があるかもしれない。
 - 市民アンケートのマイナスの回答の理由には、「学力低下」や「先生の質がよくない」などの記述が多いようだ。高学年になると塾に通う子どもが多くなるが、保護者の中には、学校の先生よりも塾の講師の方が、指導力が優れていると思う人がいるからではないかと。
 - 教育や防災の分野では、満足度が高いから資源の投入を抑えていいということにはならないと思う。鉄道の安全対策と同じように、満足度が高いという理由から予算配分を抑えると、その分野は手薄になり、元の水準を取り戻すのに多くの時間を要することになる。
-

(2) 今後の方向性

◎ 子育て世代に選ばれるまち横須賀

- 保育園待機児童数は県内でも少なくなっているが、数字のマジックの可能性はある。東京・横浜に勤めている親が子どもを預けるためには、20 時まではマストであり、21 時、22 時までの延長保育も必要とされている。横須賀市では遅い時間まで延長保育をしている保育園数は少ないため、そもそも申し込みがされないのではないかと。働く女性のニーズに合っているかさらなる検証が必要である。
 - 子育て全体を見ると保育園だけではなく、幼稚園もあるので、子育てを全体的に見て、必要な支援をしていく必要がある。
 - 幼稚園の入園支援金は自治体によって差があるので、お勧めするという意味ではないが、入園補助金を出している自治体は子育て世代の評判がよいようである。厚木市ではおむつを無料で配布している。
-

-
- 親がリフレッシュするための短時間の一時保育の充実を検討していくことが必要である。
 - 子育ての中心ははぐくみかんであるが、地域においても相談できる体制の整備と、そのための人材育成が求められる。
 - はぐくみかんを中心として、児童委員や保育士など地域のネットワークを形成し、虐待の早期解決などにつなげて欲しい。
 - 子育てしやすいまちというイメージをつくるには、まち全体で子育てに取り組んでいると感じることができる地域づくりが必要であると思う。公園などで情報交換ができるような場づくりは今後も重要である。
 - 子育てに関する問題は多岐に渡っているので、行政だけで対応することは難しい。独自の取り組みを行っている企業を評価し、支援する施策がないと水平展開がないまま埋もれてしまう。
 - 谷戸に住む高齢者には駅前に転居してもらい、家賃補助など子育て世代の支援を行いながら空いた家を活用していく施策が効果的であると思う。
-

◎ 学びを大切にするまち横須賀

- 不登校の問題は、施策の中でも重要な問題である。
 - 中学校のスクールカウンセラーやふれあい相談員の配置を充実させることで、状況がよくなる可能性があるのではないか。
 - 不登校の原因には、虐待やネグレクトもあると思う。小学校に通う子どもの親は、子育ての悩みも抱えているので、相談も含めて、教育と子育てをうまくつなげていくことが重要である。
 - 横須賀で学んだ人が横須賀で活躍できるよう、市民が学んだことを地域で生かすという気持ちになることが『新しい芽が伸びゆく社会』につながるのではないかな。
-

『新しい芽が伸びゆく社会』

- 「新しい芽が伸びゆく社会」には出産の支援、就学までの支援、学校教育などが含まれているが、安心して出産できる場の確保も大きな課題である。
 - 医師の確保や、NICU（新生児特定集中治療室）整備の支援などに継続して取り組んで欲しい。
 - 産科の医師が足りないので、横浜、川崎の病院との連携の強化が現実的であると思う。
-

（３）目標指標について

◎ 子育て世代に選ばれるまち横須賀

◎ 学びを大切にするまち横須賀

将来像３『長寿を楽しめる社会』

（１）新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか（どういうところでそう思うか）

◎ 高齢者が活躍するまち横須賀

○ 男女に満足度の差があるので注意が必要である。

○ 過去に参加した市のイベントのボランティアとして高齢者が活躍していた。市のイベントにおける高齢者と若い世代との交流は、双方にとって良い刺激となり、イベント運営に関してさまざまな世代の視点を得られる点からも大きな意味を持つと思う。

◎ 障害を感じさせないまち横須賀

○ 満足度が高く、優先順位が低いが、今後も検討していかなければならない項目であると思う。

○ だんだんよくなっていると思う。

○ 生活のうえで困らないかどうかは、障害を持っている人にしか分からない面もある。

(2) 今後の方向性

◎ 高齢者が活躍するまち横須賀

- ボランティアなどに参加する人の中で、福祉・環境関係の活動には女性、自治会・町内会の活動には男性が多く参加している。福祉と環境は男性、そのほかの分野では女性に参加してもらう工夫が必要である。
 - 地域活動に参加することで、今まで培ってきた経験を生かせる。
 - 世代間の交流は地域の活性化にもつながるので、学校の授業などに高齢者を巻き込むさらなる工夫が必要である。
 - 共通の趣味を持った仲間同士が集まれる機会やきっかけを提供するなど、高齢者のネットワークの強化も大切である。
 - 若者は学校などでインターネットについて学ぶが、高齢者はなかなかそのような機会に恵まれないと思う。これからの社会で必要な知識・技術を取得するためのサポートが必要である。
-

◎ 障害を感じさせないまち横須賀

- 心のバリアフリーも含めて、バリアフリーのまちづくりを大事にして欲しい。
 - 障害を持った人の意見を聴取し、セグメント別に意見を分析して、施策に取り組まなければならない。
 - 駅舎エレベータ設置のような施策だけではなく、バリアフリー対策には大きな視点が必要。
 - 実際に使っている人からの視点がないと十分なサービスが提供できない。
 - 障害のある人にとって、人の手助けではなく、自ら行動でき、自分で生活できることが重要である。
-

『長寿を楽しめる社会』

- 高齢化がますます進むので、高齢者は積極的に発言し、行政は意見を聴取する機会を積極的に設けるなど、まちづくりにも高齢者の声を反映させていく必要がある。
-

(3) 目標指標について

◎ 高齢者が活躍するまち横須賀

◎ 障害を感じさせないまち横須賀

将来像4『安全で安心して暮らせる社会』

(1) 新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか(どういうところでそう思うか)

◎ 犯罪がないまち横須賀

- 地域の防犯パトロールや防犯カメラの設置は効果のある対策であると思うが、空き巣などの軽犯罪に有効で、外国人の犯罪による体感治安の悪化に対しての効果は大きくない。
 - 犯罪の問題は、大きく報道される米海軍の凶悪犯罪に対する不安が大きい。
 - 地域の防犯情報により注意喚起していることが、犯罪が多いイメージにつながっている面もある。市民の防犯意識の高まりが満足度を低くさせているのであれば、数字はそれほど気にしなくてもよい。
 - 環境の側面からコンビニエンスストアなどの深夜営業について議論がされているが、深夜に集まれる場があることが、若者の犯罪の増加につながっていると思う。
 - 昔に比べ、交番に警官がいることが多くなり、安心できる。
-

◎ 災害に備えのあるまち横須賀

- 市民満足度が高い割に、優先すべき項目の順位が低くないが、地震などの災害対策といった
-

安心・安全の分野に対する優先順位は低くならないのではないか。ほかにも同じような性質の分野があるが、満足度以外の視点も必要になる。

- 教育や防災の分野では、満足度が高いから資源の投入を抑えていいということにはならないと思う。鉄道の安全対策と同じように、満足度が高いという理由から予算配分を抑えると、その分野は手薄になり、元の水準を取り戻すのに多くの時間を要することになる。

(2) 今後の方向性

◎ 犯罪がないまち横須賀

- 地域の防犯パトロールを充実させることが今後も有効な対策であると思う。防犯カメラについては、犯罪防止の効果はあると思うが、プライバシーの問題に注意が必要。
- 米軍に強く申し入れを行い、常に米軍がパトロールを実施している印象を市民に持ってもらうことが、イメージの改善につながるのではないかな。
- 米軍基地との市民レベルの交流を増やすことで明るいイメージに変わってくるのではないかな。米軍基地のイメージは悪いが、それを逆転させて日米親善の代表的なまちにできるとよい。開放日にはあれだけの人が集まるのだから、みんなが悪いイメージを持っているとは思えない。
- 犯罪発生件数が減っていることと、市民の安心感はつながっていないようなので、犯罪の種類別に検証する必要がある。
- 横須賀の持つ危険というイメージは基地と関連していると思うが、平和で静かなところがたくさんあることを PR していく必要がある。
- 学校に防犯カメラを設置しているが、出入口すべてを監視できていないなど不十分である。学校に対し求めるだけでなく、子どもたちの保護者が自主的に取り組んでもいいのではないかな。また、警備員を配置することによって、安全に学校に通えるという PR につながらないかな。
- セキュリティタウンが好評のようなので、開発・建築関係の許認可の中で、防犯に関する機能強化を誘導するという考えもあるかもしれない。

◎ 災害に備えのあるまち横須賀

- 災害が起きたとき、3 日間は自分でなんとかする準備が必要という認識を徹底する必要がある
-

る。

- トンネルや山が多いので、公共施設の耐震や物資の備蓄などの対策が十分であれば、災害時の輸送路や通信網の確保を充実させることが重要。トンネルが崩れると何もできなくなってしまうので、インフラの耐震性の確保は課題である。
- 災害時に障害者などの社会的弱者をどのように守るのかということを検討し、訓練しておく必要がある。外国人に対するサポート（パンフレットなどの充実など）も必要ではないか。
- 土地柄として土砂災害やがけ崩れの危険性が高いので、危険箇所の周知が必要ではないか。
- 原子力（空母・GNF-J・立教大学研究所）については、それぞれの運営主体や市、県の安全対策・体制をPRすることで安心感が高まると思う。

『安全で安心して暮らせる社会』

- 近所づきあいを復活させていくことが、防犯・防災に有効だと思う。キャンペーンのようなものも考えられる。

（３）目標指標について

◎ 犯罪がないまち横須賀

- 満足度が低いのであれば、低いことを説明できる指標を設定しなければならないと思う。外国人の犯罪件数や米軍基地に関連する犯罪件数などの数値の動きを見ておく必要があるのではないか。

◎ 災害に備えのあるまち横須賀

参 考 資 料

○ まちづくり評価委員会委員名簿

氏 名	役 職 等	備 考
金 井 利 之	(学識経験者) 東京大学法学部教授	副委員長
菊 池 匡 文	(団体代表者) 横須賀商工会議所事務局長	
駒 井 正 晶	(学識経験者) 慶應義塾大学総合政策学部教授	委員長
榊 原 睦 美	(市民) 公募市民	
四 宮 浩	(団体代表者) 京浜急行電鉄株式会社鉄道本部計画営業部企画課長	
鈴 木 立 也	(団体代表者) 横須賀市民生委員・児童委員協議会会長	
田 中 孝 司	(学識経験者) 株式会社地域環境計画代表取締役 都市計画マスタープラン専門委員	
長 井 興一郎	(市民) 公募市民	
西 原 徹	(団体代表者) 横須賀市安全・安心まちづくり推進連絡協議会会長	
三 村 章 夫	(団体代表者) 横須賀市立小学校校長会幹事 横須賀市立大津小学校校長	
室 谷 千 英	(団体代表者) 神奈川県立保健福祉大学名誉顧問	
森 川 菜 摘	(市民) 公募市民	

＊ まちづくり評価委員会委員の任期は、平成20年6月23日～平成23年3月31日

○ まちづくり評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 本市の行政評価に資することにより、市民本位の効率的で質の高い行政の実現に寄与するため、まちづくり評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事務を担当する。

（1）次に掲げる資料に基づいて意見を述べること。

ア 新世紀ビジョンの実現度を測るための具体的な目標の達成状況

イ 新世紀ビジョンを考慮して作成した実施計画に記載されている事業等に係る事業報告

ウ 市民アンケートの集計結果

（2）前号に掲げるもののほか、行政評価に関し必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者及び関係団体の代表者のうちから市長が委嘱する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、市長が指名する委員をもって充てる。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、企画調整部企画調整課において行う。

(その他の事項)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成13年8月1日から施行する。

(関係要綱の廃止)

2 総合計画進行管理委員会設置要綱(平成11年7月27日制定)は、廃止する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

○ 平成20年度まちづくり評価委員会開催状況

日 程	内 容
平成 20 年 6 月 23 日	第 1 回まちづくり評価委員会 (1)辞令交付 (2)企画調整部長あいさつ (3)委員会の公開等について (4)委員および事務局紹介 (5)まちづくり評価委員会の概要、進め方、 スケジュールについて (6)新世紀ビジョンについて (7)新世紀ビジョン市民アンケートの概要について (8)将来像ごとの検討 ☆将来像 1
平成 20 年 6 月 30 日	第 2 回まちづくり評価委員会 (1)将来像ごとの検討 ☆ 将来像 1 ☆ 将来像 2 ☆ 将来像 3
平成 20 年 7 月 11 日	第 3 回まちづくり評価委員会 (1)将来像ごとの検討 ☆ 将来像 4 (2)新世紀ビジョンの目標「元気な横須賀」について (3)まちづくり評価委員会報告書について

事務局:横須賀市都市政策研究所

address:〒238－8550 横須賀市小川町 11 番地

tel:046-822-8258 fax:046-822-9285

e-mail:upi-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

URL:<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/upi/>